

平成28年度 胎内市外国語活動・英語部会 活動報告

部長 滝澤 富明

1 研究主題

主体的に活動に取り組む児童の育成 ～小中連携を通して～

2 研究の概要

小・中学校の英語教育にかかわる教師が、小学校外国語活動について理解する機会を設け、小学校でどのように授業に取り組むべきなのか、中学校では小学校で学習したことをどのように活かして実践を進めていくのかを、講演会と授業研究を通して探る。

3 研究の実際

(1) 「英語教育講演会」会場 黒川小学校 参加者 12名

①講師 辻川 英夫 様 (下越教育事務所 学校支援第2課 指導主事)

②演題 「最新の英語教育事情～小中連携を踏まえて～」

③内容

- ・小学校高学年教科「外国語」、中学校外国語科のイメージについて
- ・育成すべき「資質・能力」について
- ・環境整備、指導者養成・指導力向上について



(2) 授業研究会 会場 中条中学校 参加者 11名

①授業者 曾川 信行 教諭 (中条中学校)

②指導者 浪花 健一 様 (阿賀野市立水原中学校 校長)

③単元名 中1 NEW CROWN ENGLISH SERIES 1 三省堂 Lesson 6 My family

④授業の視点と評価、指導者の指導内容

- ・教師と生徒の人間関係が構築されており、生徒は生き生きと学ぼうとしていた。準備がなされ、動機付けのある、テンポのよい飽きさせない工夫が集中した学びにつながった。
- ・Back to board, Describing Game など、コミュニケーションの必然性ある仕掛けがあった。
- ・名詞の複数形の学習を活かし、's' を意識的に発音しようとする姿がみられた。
- ・ピクチャーカード、電子メディアを使用した授業で、21世紀型学習と言える。どの先生でも使えるコンテンツであった。's' が赤い文字であったり、三単現をコントラストで際立たせる等、視覚的効果が特別支援的に配慮され、素晴らしかった。プロ意識を感じる授業であった。

4 成果と課題

(1) 成果

今年度、新たな中教審の答申が出されるなど、英語教育に関わる情報がアナウンスされ、新学習指導要領改訂への準備が必要な状況であった。部会では、指導主事より最新の英語事情を伺うことで、胎内市の小中学校において我々が今為すべきことを考える機会を得ることができた。

曾川教諭の授業からは、コンテンツの事前準備の大切さや授業のテンポの大切さ、コミュニケーションの必然性の大切さを学ぶことができた。しかしそれ以上に、授業者と生徒の良好な関係が学びのベースであることを再認識させられた、大変素晴らしい授業を共有できた。小・中学校ともに、これらのことを配慮しながら授業をすすめることの重要性を確認することができた授業研究であった。

(2) 課題

数少ない研修の場である。小・中学校の教師が英語教育に関する今後の動向に注目し、更に情報を交換しながら研修していく場になるよう改善していきたい。